

平成29年度決算に基づく 健全化判断比率・資金不足比率

① 実質赤字比率

福祉、教育、まちづくり等を行う地方公共団体の一般会計等の赤字の程度を指標化し、財政運営の悪化の度合いを示すものです。前年度に引き続き実質収支額が黒字であり、良好な状態を維持しています。

② 連結実質赤字比率

全ての会計の赤字や黒字を合算し、地方公共団体としての赤字の程度を指標化し、財政運営の悪化の度合いを示すものです。前年度に引き続き連結実質赤字はありませんでしたので、良好な状態を維持しています。

③ 実質公債費比率

借入金（地方債）の返済額等の大きさを指標化し、資金繰りの程度を示すものです。29年度は10・5%で、前年度とほぼ同数値です。早期健全化基準の25%を下回っているため、良好な状態ですが、大規模事業の地方債償還を控えているため、今後増加する見込みです。

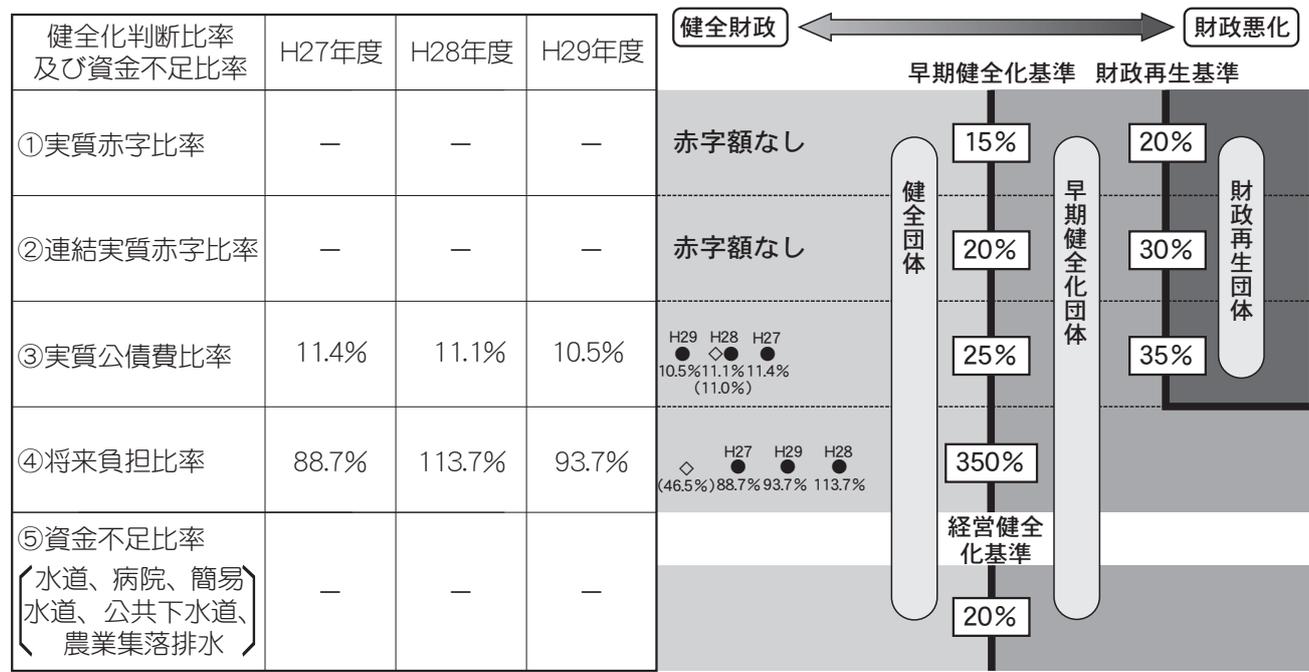
④ 将来負担比率

一般会計等の借入金（地方債）や将来支払っていく可能性のある負担等の現時点での残高を指標化し、将来財政を圧迫する可能性の度合いを示すものです。29年度は93・7%で、前年度の113・7%と比較すると大きく減少しています。これは将来の負担に充てることのできる基金等の増加が影響しています。

⑤ 資金不足比率

公営企業の資金不足を、事業の料金収入の規模と比較して指標化し、経営状態の悪化の度合いを示すものです。前年度に引き続き各公営企業に資金不足は発生しておらず、良好な状態となっています。

健全化判断比率及び資金不足比率の推移



平成29年度病院事業 決算が確定しました

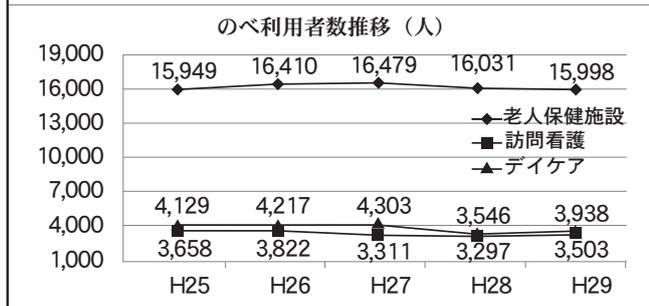
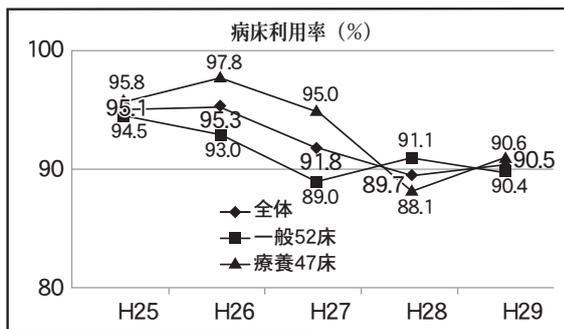
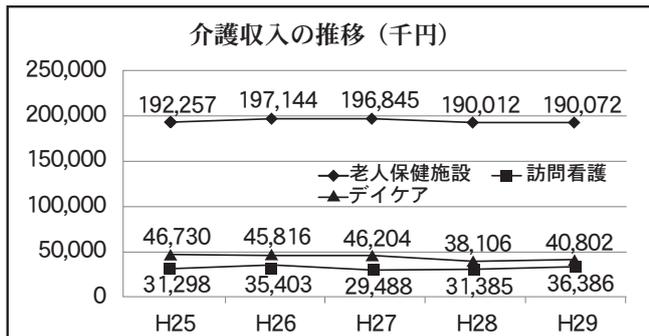
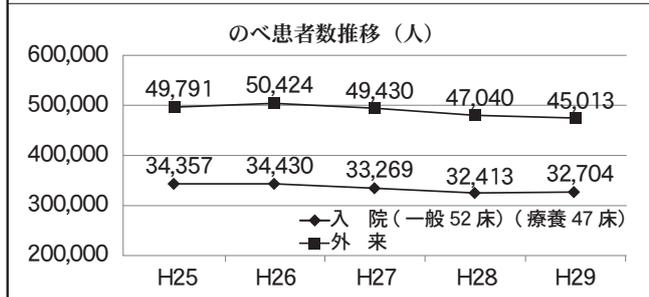
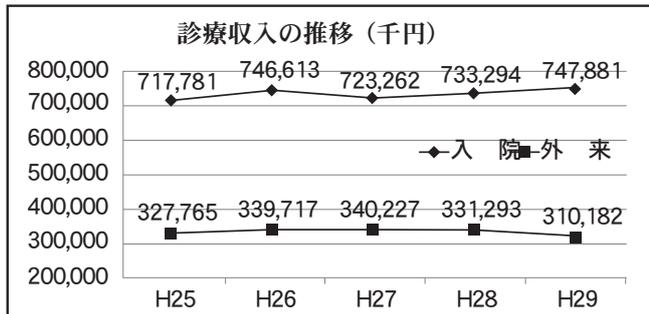
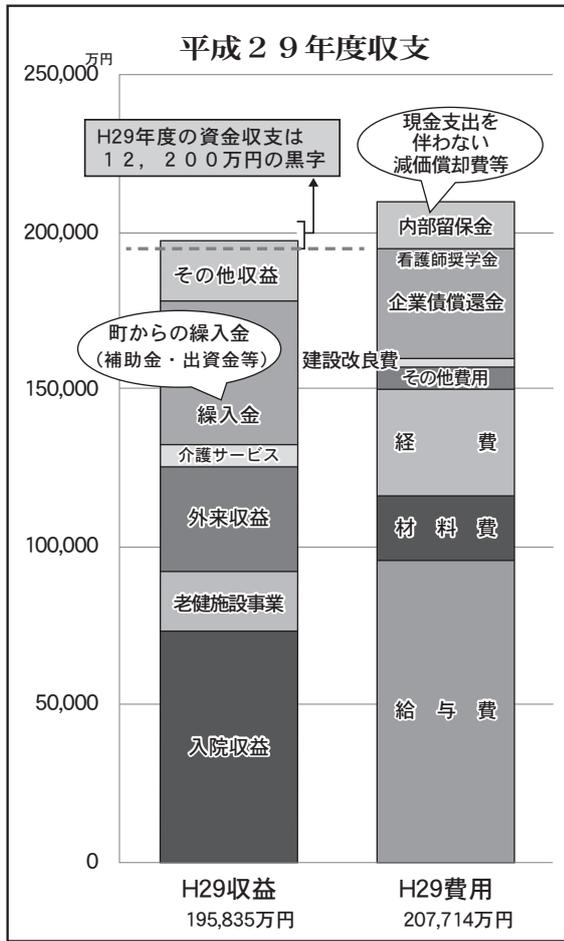
平成29年度病院事業全体の収益は19億5千8百万円（前年度比1千万円減）、費用が20億7千7百万円（前年度比4千4百万円増）で留保資金（減価償却等の現金支出を伴わない費用）を除く資金収支は1億2千2百万円の赤字でした。

平成29年度の外来患者数は28年度を2千27人下回り、約2千万円の減となりました。

また、費用では、給与費や材料費は前年度比で減少しているものの、医療器械の更新等で建設改良費が、前年度比5千万円ほど増加しております。

今年度以降は平成29年度に見直した新改革プランに沿った運営に努め、健全な病院運営を行ってまいります。

引き続き、町民の皆さんにいつまでも安心してこの地域で暮らしていただけるよう地域包括システムの構築に努めるとともに、効率的な病棟運用を行い、住民ニーズに即した病院運営に努めてまいります。



問合せ先 国民健康保険智頭病院 総務課 ☎ 75-3211